

第2回社会基盤専門委員会での主な意見

(景観)

- ・歴史的な建造物が多い地域は、景観に配慮した都市計画が重要になってくる。企業と行政が連携、模索して進めていく必要がある。

(まちづくり)

- ・伝統・文化というものは、このままの形で残すだけでは残っていかないものである。現代の暮らしに合わせて作りあげていくものである。そういった面からも、行政はどうしたら本来の伝統や文化を残していけるかというところを考えながら、まちづくりや地域づくりを考えていく必要がある。
- ・「自分の住んでいるところはこうだ」という、誇りを持って言えるような社会基盤を作らなければならない。

(空き家)

- ・「空き家、空き地の適正管理と利活用」とあるが、今後空き家が増加し、それらを有効利用していく方法を考えなければ、構造上も防犯上も危険である。鶴岡市でも、補助や解体等も含め幅広く考えていく必要がある。
- ・「つるおかランド・バンク」では、空き家の有効利用等について助成金を出すという制度もあり、利用拡大に努めていかなければならない。
- ・中山間地では、空き家が雪の重みで倒壊した事例が数件ある。その内持ち主がわからない家も存在している。こういったことも踏まえ、地域と行政が連携して、将来的な空き家問題の設計をしていくべきである。
- ・所有者が不明な空き家は、将来的にあらゆる不安をはらんでおり、行政としても突き詰めて所有者を管理していく必要があるのではないか。

(情報社会)

- ・「情報社会に対応した環境整備の推進」のためにも、公衆無線LAN環境やエリアデジタル放送等、整備していく必要がある。

(高速交通)

- ・羽越本線の環境整備を推進していく必要がある。鶴岡から温海温泉の区間では、まだ単線の区間もあり、せっかくの観光資源も十分に利用されていない現状が見られるとともに強風による遅延の問題などもあり、JRや市民にもこういった現状を訴えていくべきである。
- ・観光の面や商工業の面から見ても、飛行機の増便は必要である。

(その他)

- 地域から問題提起があった場合、行政は公共的にどう続けられるかという発想で考えていかなければならない。そういったことが地域づくりに繋がる。
- グランドデザインやマスタープランに、鶴岡について大まかにイメージできるもの（住んでみたいまち、快適なまち、楽しいまち 等）がもう少し明記してあると、非常にやりやすいのではないか。
- 鶴岡市のグランドデザインはあるわけなので、そういう視点にたって、まちをどうデザインしていくかというものがあれば、議論しやすい。
- 観光地までの公共交通や自転車の利用等に、力を入れていくべきである。